

島のひろば

第568号

「島のひろば」編集委員会
電話 04992-2-8256

Eメール・jcposhima@yahoo.co.jp
www.3.plala.or.jp/jcposhima/

(検索サイトからは「日本共産党 伊豆大島」)

くらしの相談は共産党町議団へ
山田2-3670 橋本2-3614 小池2-9318

市民の声が野党を動かす 参院1人区、すべてで野党統一

「政治は変えられる」 野党と市民の共同が未来開く

5月31日、佐賀県で野党統一が実現し、これですべてで、野党統一が決まりました。

野党共闘前進へ 共産党、二つの決断

第一の決断

野党共闘前進のために、日本共産党は、「二つの決断」をしました。

第一の決断は、「安保法」「戦争法」が強行採決された昨年9月19日午後、「戦争法(安保法制)廃止

の国民連合政府」を提唱したことです。

戦争法ばかりは、「数の暴力」で強行されたからといって放置できず、廃止しなければならぬ、それを実行する政府が必要であること、この一点で野党が協力を行い、安倍政権を倒そう、そう呼びかけ、実現の

32の1人区(定数1)

すべてで統一 香川では共産に一本化

*空白の都道府県は複数区(定数2名以上)です。

(「赤旗」6-7月号外より)



第二の決断

第二の決断は、2016年2月19日、5野党党首会談の合意を踏まえ、「参院1人区では思い切った対応をする」と表明したことです。日本共産党は、野党共闘を前進させるためには、思い切った譲歩が必要であり、「かなりの人をおろす」という決断をしてま

舛添都知事辞職、世論の画期的勝利 自・公支援知事、2代続けての途中辞職

でも野党共闘前進の軌道に乗せなくてはならないと考えたのです。こうしてこの決断と市民の強力な後押しともあいまって、ついに1人区すべてで野党4党の一本化が決まったのです。「政治は変えられる。希望ある未来開く画期的な一本化だ。機関車役の共産党を大きく伸ばして、野党と市民の共同の発展めざし、さ

「辞職で疑惑の幕引き許されぬ」

共産党、「ネット」提案の百条委設置、自・公などの反対で否決

「公私混同の極み」「身銭を切るのがきらいなケチな人」と批判を浴びた舛添要一知事がついに辞職。自民・公明支援の都知事が「政治とカネ」の問題で任期途中辞職するのは2代続けてのことです。共産党都議団が「高額海外出張」問題を告発したのが4月7日。これをきっかけに、以後2ヶ月間に疑惑が続出。共産党都議団は、代表質問、一般質問、集中審議で調査にもとづき質問し、舛添知事を追いつめました。特に、集中審議での曾根議員の

「家族旅行費を『会議費』とした政治資金不正使用疑惑」への質問は、テレビでも「いい質問で90点だ」と評価するコメンテーターもいました。党都議団は、いち早く辞任を求め、不信任案・強力な権限を持つ「百条委員会」設置を提案、追及の先頭に立つてきました。最終日の15日には、「辞職で幕引きは許されない」と真相解明のために、偽証罪も問える百条委員会設置動議を「生活者ネット」と共同提案しましたが、自民、公明などの反対で否決されました。



やまぞえ
山添
たく
拓

参院(東京選挙区)予定候補
弁護士・31歳

政治とカネ抜本解決に全力

「政治とカネの問題」について日本共産党の見解を紹介します。

「政治とカネ」の問題は、都政だけでなく、「甘利問題」を含め、国政でも根深い問題になっています。日本共産党は、「腐敗」の根源の政党助成金(税金)・企業団体献金に無縁で、その廃止を主張している唯一の政党で、「一番清潔な政党」と評価されています。日本共産党は、国政でも、「抜本解決」めざし全力を上げます。

共産党町議団の

一般質問

6月定例会

15日に行われた一般質問の概要です。(答弁を含め詳細は次号に掲載)



山田忠敬議員は、二つのテーマで質問しました。

1、空き家対策の具体的な進展を

山田議員は、住民から「放置された空き家は瓦は落ちそう、壁ははがれ落ち、屋敷は雑草だらけで困りきっている」との声を例に、空き家対策の具体化を求めました。

- ①「空き家対策計画」の作成
- ②法律にある「協議会」を設置し、住民・民間業者の意見を聞き、結果を広報すること。そして急ぐべき課題として、
- ①危険空き家を「特定空き家」として認定し撤去する。
- ②解体撤去しなくてもよい空き家を移住者の定住促進、若者・子育て世代支援に活用すること、を提案しました。

2、発達障害児への言語聴覚士による療育活動を
昨年、山田議員が取り上げた「言語聴覚士」による支援として「相談活動」が実現している

が、山田議員は、さらに、①月一回でも療育活動の場をつくる
②発達障害の早期発見・早期療育開始のために、乳幼児・就学前検診での障害有無の調査、を提案しました。



小池 渉議員は次の三つのテーマで質問

1、分かりやすい広報活動を

①国・都・町独自の支援事業(減免措置・補助など)を住民に徹底するために、「広報おおしま」だけでなく、事業一覧表の作成、ホームページに載せること、を提案。

2、ごみ袋・水道料金の減免措置の拡充を

①ごみ袋減免対象を「紙おむつ使用寝たきり高齢者」だけでなく、「紙おむつ使用高齢世帯」に拡充。

②水道料金の減免も「80歳以上」から「75歳以上」を対象

3、観光環境の整備を

①踊り子の里資料館(旧港屋旅館)と甚の丸邸の整備充実のために港屋に泊まった著名人の写真や作品を両施設に展示するなどの整備を提案。



橋本博之議員は、「都立広尾病院」の移転・改築

問題について質問しました。

橋本議員は、「都の病院経営本部は、都立広尾病院を移転・改築し、災害時の医療体制を強化するため『首都災害医療センター(仮称)』として整備する方針を決定した(オリンピック後)」として、次のことを要望しました。

- ①「災害医療センター」において、島民が現在の広尾病院と同様の医療サービスが提供されるのか。
- ②移転改築に伴う島民の新たな要望を島しょ町村会で協議し、島民の利便性の確保に努力すること。
- ③「さくら寮」のような宿泊施設を継続設置、ヘリポートの整備、大島医療センターとの連携強化、地域包括ケアシステムの構築拠点化。
- ④今すぐ広尾病院に地域包括ケア病棟設置に努めること。

大島文学・紀行散策

学者・評論家編

本田正次(植物学者) 「大島の春」外 四

442 時得孝良

「桜株」を見た画家の伊東深水は、「幹など見るからに玄妙(趣が深くすぐれている様子)な感じのする、立派な木だ」、また作家の幸田露伴は、「方々に臥龍梅というのがあるが、これはまさに臥龍梅とでもいいたい桜である」と簡潔にその特徴を表現しているのに対し、牧野は、「大小十三条の枝が章魚の脚かヒドラの肢のように」「蜿蜒(へびなどがうねり行く様子)として長蛇のノタクッタ」との比喻を使いながら描写している。

私如き素人にはいかんともしがたいが、この提案が実るのを祈るばかりである。

さて、横道の奥に入り込んでしまっただが、本道に戻り本田の「伊豆大島雑感」の紹介を続けたい。

本田は、大島桜の紹介を次のようなユーモアある文章で結んでいる。

「乙女の黒髪が純良な椿油に養われた賜だとすれば、この桜にも亦乙女達の感謝の眼はむけられてもよいものと思う。それはこの桜の花梗(花柄)にも尊にも毛がなく、滑らかなのはその毛がみんな乙女達の長い黒髪に化した為ではあるまいか。大島桜の葉はまた東京に齎されて桜餅や葛餅の包み物になって、甘党を喜ばすという。アンの島の島の桜葉が花のお江戸の餡子を包むのも奇しき因縁というもの。」

「伊豆大島の雑感」の最後に、三原山砂漠が淡い旅愁を味わえること、波浮の港の古い屋並が南国らしい落ち着きと親しみとを見せてくれることなどを記し、「島の良習美俗は何時までも残したい。開発も必要だがその方法を誤ることが我等の最も恐れる所である」と、懸念を表白している。「時遅し」の感もあるが、先人の懸念に真剣に向き合うことが必要ではないだろうか。

《兔に角、大島桜は大島の誇りであるから、同格の椿と共にもつとずつと大量に植え、雲の如く又霞の如き桜の花と、燃えるが如く、絳帳(赤いとばり)の如き椿の花とで全島を埋め尽くし、愈愈同地をして東海上の花彩島たらしめたらと佳いと思ふ》